

## 人・社会を支えるネットワークソフトウェア技術とその応用論文特集の発行にあたって



人・社会を支えるネットワークソフトウェア技術とその応用論文特集編集委員会

委員長 水野 修

財団法人日本漢字能力検定協会は2011年の「今年の漢字」を「絆」と制定した。2011年3月11日に発生した東日本大震災では、通信インフラの倒壊や規制、あるいは非常電源の枯渇などによって通信が途絶する状況が発生し、多くの被害をもたらした。しかし一方でインターネットにアクセスできる環境がある場所では、ストリーミング放送やインターネットラジオなどによる被災情報の報道、TwitterやSNSなどを通じて安否確認や救援物資、ボランティア活動情報の流通なども展開された。これらを通じて、様々なメディアを通じた人と人、人と社会の「絆」を再認識させられた。

人と人の絆、あるいは、人と社会との絆を結び付ける将来のサービスには、従来のユビキタスサービスで重視されていた遍在性のほかに、利用者の特性に配慮したサービスの高度化が必須であろう。

この実現のためには、ネットワーク方式はもちろん、システムの連携、情報の判別、負荷分散、運用技術などの課題を解決する必要がある。これらの多くは、ネットワークソフトウェアで実現されるものであり、ネットワークソフトウェア技術について議論を深めることが肝要である。

議論のための場として、ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会が主催する、「ネットワークソフトウェア研究会」がある。ここでは、萌芽的なアイデアから運用上の問題についてまで、議論の時間を多く割いて活発な研究検討がなされている。

一方、まとまった研究成果については、論文誌を通

じ多くの研究者、技術者間で共有し展開することが重要である。そこで、ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会では、定期的に論文特集号を企画し、研究成果の共有及び展開に助力してきた。

本特集では「人・社会を支えるネットワークソフトウェア技術」をテーマとし、論文を募集した。投稿された論文は9編あり、専門分野の査読委員による厳正な査読と、編集委員がじっくりと時間をかけ議論した結果、5編を採録した。

詳細は各編を読んで頂くこととして、これらはいずれも新規性の高い方式の提案と、信頼性の高い評価結果を示しており、実用化に向けた有効性を示唆している。これらの研究成果が、人や社会の絆を深めるネットワークの実現に大いに貢献できるものと期待している。

最後に本特集の発行にあたり、貴重な研究成果をまとめて投稿頂いた執筆者の方々、御多忙の中貴重な時間を割いて厳正な査読を行って頂いた査読委員の方々、査読委員との調整、結果のとりまとめ、回答案の作成など精力的に行って頂いた編集委員各位、事務局として正確かつ迅速な事務処理を行って頂いた電子情報通信学会の奥村梨奈様に深謝の意を表します。

水野 修 (正員：シニア会員) 昭58東工大・工・電気・電子卒。昭60同大学院総合理工学研究科修士課程了。同年、日本電信電話(株)入社。平21より工学院大学、現在、同大教授。通信サービス開発支援技術、高度INシステム、IPサービスシステム、情報通信プラットフォーム技術の研究開発に従事。博士(国際情報通信学)、情報処理学会会員、IEEE各会員。

### 人・社会を支えるネットワークソフトウェア技術とその応用論文特集編集委員会

委員長	水野 修
幹事	末田 欣子・別所 寿一
委員	石田 賢治・太田 理・荻野 長生・角田 良明
	加藤 圭・北形 元・中村 光宏・新津 善弘
	三宅 優・若原 恭